

前回〔第4回 ふじさわ男女共同参画プラン推進協議会(2020年11月26日開催)〕におけるご意見への対応

項目	委員名	意見	事務局見解
新型コロナウイルスとジェンダー	井上委員	<p>・「新型コロナウイルスとジェンダー」という一つの柱立てに基づく記述がなされたことは大変良かったと思う。その上で、ここにきて女性の自殺率が極めて高くなっており、自殺率の男女比の逆転に注視する必要がある。市の自殺対策において、どの程度、ジェンダーの視点を考慮しているかも大切である。</p>	<p>・2020年(令和2年)11月に、内閣府に設置され、有識者で構成される「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会」が緊急提言を行い、「新型コロナウイルス感染症の拡大は、特に女性への影響が深刻であり、“女性不況”の様相が確認される」との指摘とともに、女性の自殺者数の急増が懸念されているため、この点についての記述を行いました。</p> <p>・併せて、「ふじさわジェンダー平等プラン2030」の指標項目について、「重点目標6 誰もが安心して暮らせる社会づくり」の中に、「自殺死亡率」の指標設定を行いました。</p>
	木村委員	<p>・女性の自殺が増えている点については、やはり何らかの形でしっかりと言及しておく必要があるのではないかと。「新型コロナウイルスとジェンダー」の中で触れてはどうか。</p>	<p>・なお、現行の「ふじさわ自殺対策計画」(福祉健康部 保健予防課)は2023年度(令和5年度)に目標年次が終了となることから、今後の見直しに向けて、相互に連携を図っていきたいと考えます。</p>
スポーツとジェンダー平等	小野委員	<p>・女性アスリートについては、月経周期の問題もあり、今後は、こうした心身への影響について科学的・医学的視点に基づいた指導であったり、キャリア形成が重要と考える。</p>	<p>・「ふじさわジェンダー平等プラン2030」においては、具体的事業として「女性競技者のキャリア支援に向けた検討」(スポーツ推進課)が掲げられています。また、現行の「藤沢市スポーツ推進計画(みらいふじさわスポーツ元気プラン)」(生涯学習部 スポーツ推進課)は2021年度(令和3年度)中に改定が予定されていることから、そこでの議論も尊重しつつ、“ジェンダー平等”の視点から、相互に連携を図っていきたいと考えます。</p>
	木村委員	<p>・スポーツとジェンダー平等の関係性について、「重点目標5 多様な性を尊重する社会づくり」における「課題1 性の多様性への理解と支援」の最後に記載されている内容については、「重点目標6 誰もが安心して暮らせる社会づくり」における「課題3 “人生100年時代”に向けた健康づくり」の「施策の方向性①生涯にわたる健康づくりの推進」においても言及されるとよいのではないかと。</p>	<p>・スポーツとジェンダー平等の関係性については、「ふじさわジェンダー平等プラン2030」において初めて言及したこと、また、現行の「藤沢市スポーツ推進計画(みらいふじさわスポーツ元気プラン)」が2021年度(令和3年度)中に改定が予定されていることなどから、今回は現行表記のままご理解いただければ幸いです。</p>

項目	委員名	意見	事務局見解
具体的事業一覧	木村委員	・タイトルだけでなく、一文説明を入れてわかりやすくしてはどうか。	・タイトルに続き、「この計画における重点目標1から6に関する具体的な事業と担当課は次のとおりです。」との説明文を記載しました。
指標関係	井上委員	・「ふじさわジェンダー平等プラン2030」の指標項目について、これらの指標を達成していくに際し、どの取組と関連しているのか紐づけてはどうか。	・指標により、個別具体的な事業との紐づけが比較的容易なものがある一方、相互の事業が複合的に関連するものなどがあり、見せ方及びバランスを考慮すると、難しいと認識しています。今後、事業の進捗管理等を進める中で、引き続き検討をさせていただきます。
	井上委員	・「ふじさわジェンダー平等プラン2030」の指標項目について、「6歳未満の子どもを持つ夫の育児・家事関連時間」について、引き続き取り上げてはどうか。	・2018年(平成30年)に実施した「藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査」において、初めて質問項目として取り上げましたが、内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」における指標と基準が異なり、比較が難しいこと、また、実績値が乏しい現実があります。そのため、今後の市民意識調査等の動向を踏まえ、検討をさせていただきます。
	富山委員	・「ふじさわジェンダー平等プラン2030」の指標項目について、「重点目標6 誰もが安心して暮らせる社会づくり」の指標に関して、さまざまな困難を抱える人々といった視点を取り入れた指標を追加できないか。自殺の問題など、ここで指標設定してはどうか。	・「新型コロナウイルスとジェンダー」の視点から、女性の自殺者数の増加が極めて深刻な問題として言及されていることに加え、男性、小中高生の自殺も増加傾向にあることなどを踏まえ、新たに「自殺死亡率」の指標設定を行いました。
	宮川委員	・「ふじさわジェンダー平等プラン2030」の指標項目について、「重点目標6 誰もが安心して暮らせる社会づくり」の指標に関して、リプロダクティブ・ヘルス/ライツにやや偏っているように感じる。“誰もが”“健康増進”といった視点からの指標を追加できないか。	・国の「第5次男女共同参画基本計画」においても、生涯を見通した健康な体づくりを推進するため、男性に比べて女性の運動・スポーツ習慣者が低いことが指摘されていますが、「藤沢市健康増進計画(元気ふじさわ健康プラン)」(福祉健康部 健康増進課)に基づき、すべての人々の健やかな生活習慣の形成に向け、新たに「日頃運動をしている人の割合」の指標設定を行いました。